

番号	79	和田津海大神		
所在地	鹿島市重ノ木 重ノ木天満宮			
災害別	天保14年(1843)高潮、大正3年(1914)高潮			
目的別	記念碑	建立年	大正6年8月	
特記事項	一部表記できず			



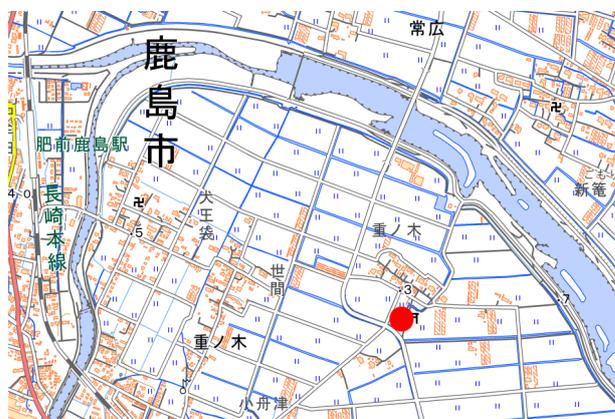
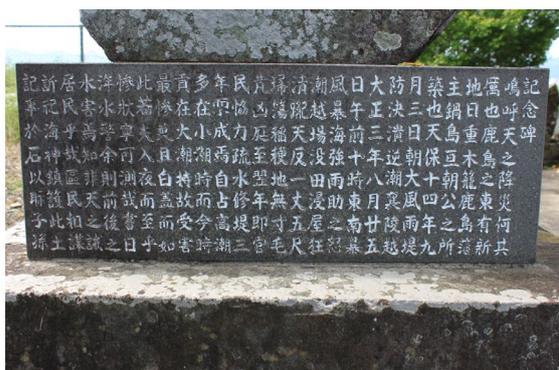
鹿島市重ノ木の重ノ木天満宮に、大正3年の高潮による災害復旧の記念として建立された「和田津海大神」の碑が建てられている。その経緯について、「鹿島市災害史」(昭和54年12月20日発行 佐賀県鹿島市立図書館)に次のように記載されている。

「重ノ木では、大正3年の高潮による被害が特にひどかった。それから3年たった大正6年にその復旧工事が終了したので、区民は永久にこれを記念し、併せて子孫に警戒させようと同区为天満宮境内に、新たに和田津海大神を奉祝し、既に完成したので8月25日の高潮の当日に全区民挙って同神社に参集し、斉藤寿吉町長、副島寅次郎助役、町会議員、区長等を招待し、記念祭を盛大に挙行了。和田津海大神を祀る記念塔は今も同所に残っている。この記念塔は大正6年8月1日久布白兼武撰并書になっており、天保14年の大潮の被害を記し、この土地を高潮から守るために海神である和田津海大神(綿津見神)を奉祀したという由来を述べている。」(P79)

(碑正面)「記念碑 嗚呼天之降災何其厲也鹿島之東有新地日重木籠鹿島藩主鍋島亘朝公之所築也天保十四年九月三日朝大風雨堤防決潰逆潮襄陵越大正三年八月廿五日午前十時東

南暴風暴海強雨助之怒潮越場没田浸屋狂漬口天反一丈五尺口蕩稻稷地無寸毛口凶口至翌年即官民協力疏水修堤三年口成焉自占高潮多在小潮時而今時貢在大潮持故受害最慘乘且白盡而如此口夫入夜而至乎慘狀寧可測哉書曰濊水警余則前後之水害焉知非天之誠居民乎哉區民相謀訴祀海神鎮護此土記事於石以口子孫」 (右側面)「來請余文乃作銘曰重木之邑良農口宅蕨土沃饒宜稻宣口天災再降安可逆知百世之後鑒之警之 大正六年八月一久布白兼武撰并書」

町長 齊藤 壽吉 助役等氏名 (略)



有明海と堤防 (鹿島市 新籠海岸)

国土地理院電子国土 Web